https://rodosoken.com/

たこと、しかし「他方では、その主人公となるべき力も培われてき」た、と述べている。

本書は「IT革命」の表層に現れた議論と問題点の指摘にとどまらず、歴史的意義をも視野に論じている点で、有益な書であるが、それだけに注文をつけておきたい。それは資本主義的な「IT革命」のもとでの、企業間関係や労働、労使関係の変化などの具体的な分析と検討が欠けていることである。資本がIT技術をとらえたことによる社会経済的変化の分析こそ、解明を求められていることではあるまいか。しかしそれは著者だけの課題でなく、評者の課題でもあるのだが。

いずれにしろ、本書は「IT革命」について、その問題の所在をわかりやすく解明しているので、興味を持つすべての人に一読を勧めたい。

(新日本出版社・2001年5月刊・950円)

(ふじた　みのる・理事・桜美林大学)

朝日健二著

「図説・医療改革を見る40のポイント」

草島　和幸

小泉“医療改革”の危険な本質が解明される

小泉構造改革の不良債権処理など具体的内容も定かでない7月の完全失業率が史上最悪の5%になるなど国民生活危機が深刻化してる。このうえに追い討ちをかける“骨太の方針”と称する予定されるプログラムが強行されたら、労働者と国民のくらしはどうなるのかをこの時期に確かめることは、いわゆる「小泉人気」の正体に迫ることでもある。

本書は小泉構造改革の“社会保障”分野においてとりわけ緊急課題である“医療改革”に焦点を絞ったことにはそれだけの差し迫った理由がある。とりわけマスコミで相次いで報じられるおもな項目は以下の諸点である。①健保被保険者本人の医療費自己負担30%、②老人医療適用年齢75歳以上と自己負担20%、③すべての高齢者から保険料を徴収する老人保険制度創設、④病院経営への株式会社参入などである。すでに先行してスタートした介護保険における介護サービスや老人医療における10%自己負担がサービスと治療・受診の自己抑制となっている現実がある。

2002年度からの実施とされる医療保険・医療制度における国と企業負担抑制が眼目である“医療改革”が国民生活に重大な打撃となるのは明らかである。

Ⅰ章からⅥ章までの構成と内容を示す表題は「～を見るポイント」ないしは「～のポイント」で表示されているが事項をあげれば、“医療構造改革”“介護保険制度”“医療改革”“医療提供体制”“診療報酬・薬価問題”“財源問題・住民参加”である。ここだけ見れば、小むずかしい専門書と思われるだろうが、そうではない。特色は100点の最新の統計図表と併せた小見出しと簡潔な文章である。

先の各章から一つだけ小見出しを拾いあげると、“「だれが」「いくらで」「どのように」”“おむつはずしは人間復興の第一歩”“「高齢者裕福論」のウソとホント”“日本の看護婦は米国の5人分働く”“粗診粗療、たらい回しの定額払い”“社会保障は人類多年の努力の成果”などであり、読みやすくて分かりやすい構成と内容であることが理解されるだろう。

著者が日本の社会保障運動の画期となる「朝日訴訟」の継承者であり、それを原点として現在も活動していることは周知のとおりである。いま日本の社会保障運動がこの原点に立ち戻って、考え・行動することが求められているのであり職場と地域における学習テキストとして広く活用されることが期待される一冊である。

(大月書店・2001年7月刊・2000円)

(くさしま　かずゆき・労働総研事務局長)

お詫びと訂正

本誌2001年夏季号№43の新刊紹介＝兵庫県労働運動総合研究所編『雇用と賃金を守り安心して暮らせる21世紀を2001年版国民春闘白書』の一部に誤りがありました。関係者各位および読者のみなさんに多大のご迷惑をおかけしましたことをお詫びし、訂正いたします。

58頁右段20行目
(誤) 研究所長である菊本神戸大学教授
(正) 研究所理事長である中谷神戸大学教授
同39行目
(誤) 愛知県労働運動研究所編集
(正) 兵庫県労働運動総合研究書編集